平成１４年度

心の教育授業実践研究

第６号

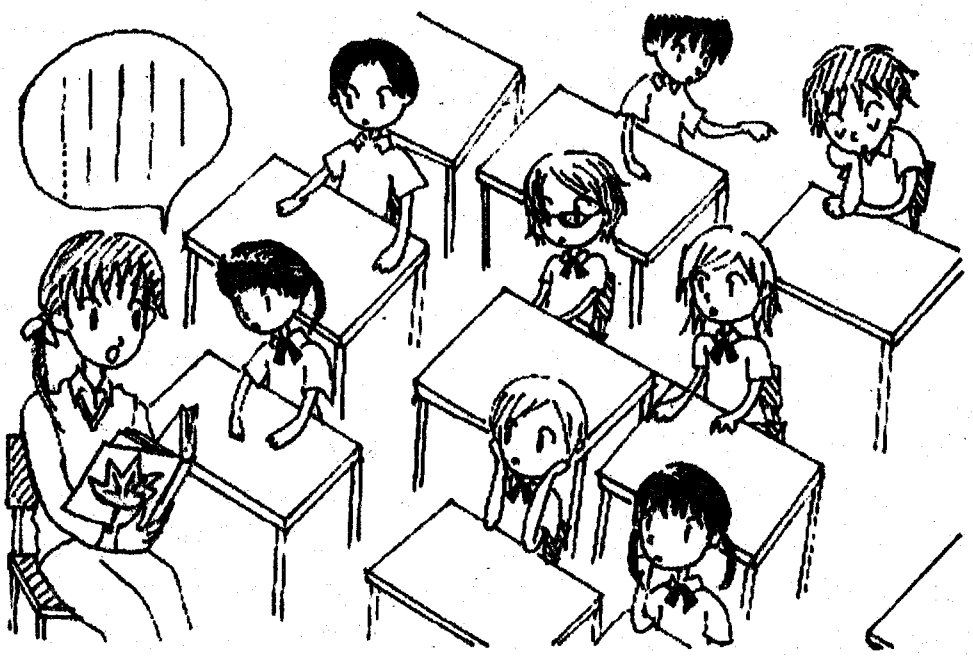
高等学校編

Ⅰ　心の教育授業実践プログラム
　１　心と身体のリラクセーション
　２　自己発見と自己理解の促進
　３　積極的、友好的人間関係づくり
Ⅱ　心の教育授業実践結果とその教育的効果
　１　心と身体のリラクセーション
　２　自己発見と自己理解の促進
　３　積極的、友好的人間関係づくり
Ⅲ　心の教育授業実践資料編

兵庫県立教育研修所　心の教育総合センター

5）生と死をみつめる授業Ⅰ

―― 絵本の活用 ――



1）時　間　　連続の2時間（100分）

2）場　所　　教　室

3）ねらい　　「生と死」や「喪失体験」をテーマにした絵本にふれることを通して、人間が生きていく上での避けられない悲哀を素直な気持ちで感じ取り、今をよりよく生きる意識を高めさせる。

4）準備物　　授業用プリント、絵本朗読CD、絵本内容を紹介したプリント、振り返り用紙（授業プリント8）

5）配　慮　　「死」をみつめることを通して今をよりよく生きようとする気持ちを一層喚起するというのが本授業のねらいであるが、「死」という重いテーマを取り上げているため、特に自分に関わりの深かった人を亡くしている生徒への配慮は、慎重におこなうべきである。あらかじめ承知している該当生徒については、本授業が終わった後もしばらくはしっかり見守る必要があろう。

6）授業展開　　第1時～第2時

場　面	活動内容	留意点
【第1時】		
ねらいの説明	今回の授業計画の全体の流れの説明を受ける。本時のねらいの説明を受ける。　(10分)	・「生と死」をテーマにした授業が、マイナスのイメージで受け取られないよう気を配る。
ウオーミングアップ	心静かに「生と死」をみつめるための準備として呼吸法をおこなう。　(5分)	・腹式呼吸(10秒呼吸法)を説明し、気持ちを落ち着かせ、教室内の雰囲気を整える。
「生と死をみつめる授業」展開	「葉っぱのフレディ」を読んで、「生きること」、「死ぬこと」の意味について触れる。「フレディ」の生き様を通して生きているものにとって必ずおとずれる「死」を見つめ、今を精一杯よりよく生きる姿勢を考える。　(35分)	・校内放送を利用して朗読CDを流す。放送が流れ始める合図までに、ウオーミングアップを終えておく。 ・展開のポイントとしては、生徒に「死」をしっかりとみつめさせる。そして、それが、自分が「生きていること」、「よりよく生きること」につながるきっかけになることに気づかせる。
【第2時】 「感想文」and「手紙文」	本授業の感想文を書く。 「(　　)へ」という見出しで、自分が生きていく上での決意を手紙文にして述べる。(30分)	・生徒の様子を、よく観ておく。身内を亡くしている生徒の場合、手紙文を書く際に、気持ちがふさぎ込んで泣き出してしまうことも考えられるので、教室内の雰囲気には十分に気を配る必要がある。
振り返り	今回の一連の授業の感想を尋ねる。 「死」に対するイメージがどのように変わったか。今回の授業を受けたことでどういう気づきがあったか。また今後の自分の生活にどういう影響を与えるか、などについてを話し合う。　(20分)	・振り返りを通して、今回の授業の意義を整理する。 ・時間がない場合は、担任教師が今回の一連の流れで気づいたことを述べ、整理する。

7）応用指導案　　絵本　『100万回生きたねこ』の活用例

（1）時　間　　2時間（50分×2）

（2）場　所　　教室

（3）準備物　　絵本「100万回生きたねこ」の本文プリント（ワープロにより作成）

第1時　　今回の授業に関する感想記入用紙

第2時　　第1時の生徒の感想文（抜粋）を印刷したプリント

今回の授業に関する感想記入用紙

（4）ねらい

①絵本「100万回生きたねこ」を読むことで、主人公のねこの生と死の繰り返しを通して、「かけがえのないものの存在が自分の生きる支えになっていること」を知る。そして、自分の心の中にある「かけがえのないもの」の存在を探し、その存在をじっくりと見つめることで今後の生き方を充実したものにしていく。

②「100万回生きたねこ」の朗読後に感想文を書くことで、「生きがい」や「生きる目的」をもって人生を送ることの意義を感じ取らせる。また、今の自分にとって「かけがえのないもの」に対する思いをまとめることで、生きていく上での支えとなる「心の糧」の存在に気づかせる。さらに、感想文のまとめを通してフィードバックし、周囲の同年代の仲間の「かけがえのないもの」に対する思いを知ることで、よりよい生き方を目指す気持ちを喚起する。

（5）指導案　　第1時

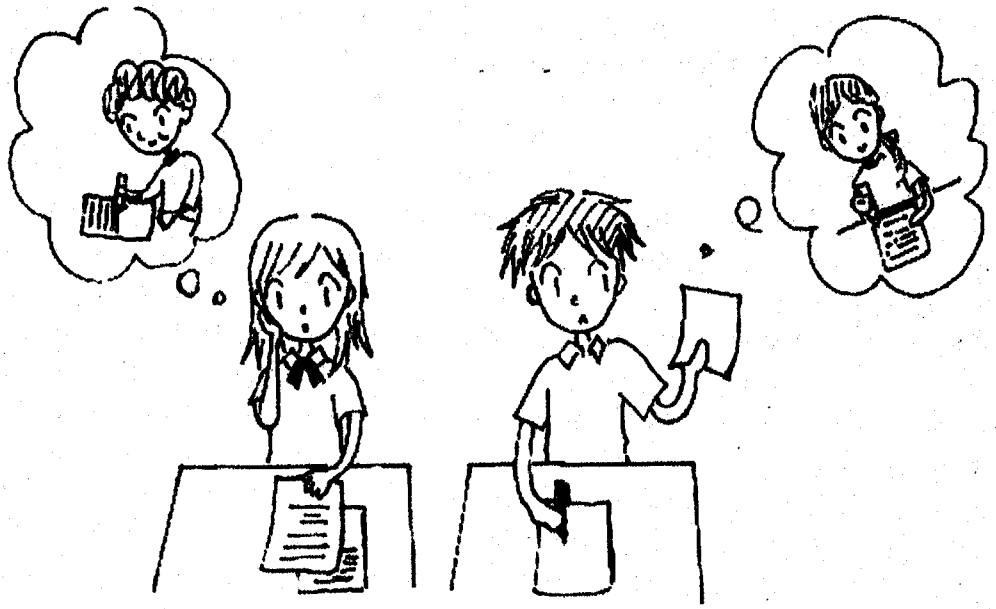
場　面	活　動　内　容	留　意　点
ねらいの説明	今回の授業計画の全体の流れの説明と本時のねらいの説明を聞く。（5分）	・放送により全クラスに共通の説明。
「生と死をみつめる授業」展開	①「100万回生きたねこ」を読んで、「生きること」、「生きがい」について考える。（朗読　15分） ②感想を書くなかで、今までの自分の生き方を振り返る。そして、自分にとって「かけがえのないもの」の存在に気づくことで、今後の自分の生き方をよりよくしていく気持ちを喚起する。（感想文 25分）	・校内放送を利用し、朗読を各クラスに流す。 ・感想文用紙配布。 感想文記入。 ・生徒の様子を観察し、落ち着いた雰囲気の中で感想文を書けるようにする。
まとめ	各自の感想を出し合う。（5分）	感想文回収。

第２時

場　面	活動内容	留意点
前時の振り返り	前回読んだ絵本の内容を思い出し、何について考えたか、教師の話を聞きながら思い起こす。（５分） 今回は、「かけがえのないもの」について周囲の仲間はどのように感じているか知る。 そして、「生きる支えとなる心の糧」の存在の大切さを知る。 このことが今回の授業の中心になることを知る。	ねこが100万回かかって見つけだした答えをわたしたちは１回の生で見つけなければならないことを伝える。 今回の授業では「かけがえのないもの」について考えることを伝える。
「生と死をみつめる授業」展開	下記の①・②をそれぞれまとめた資料プリントを読む。 ①「100万回生きたねこ」の感想を通してよりよい生き方とは何かを考えてみる。 ②周囲の仲間は何を「かけがえのないもの」と感じながら生きているのか知ることで自分の生き方を問い直してみる。（25分）	資料プリントを読み聞かせ、教師のコメントを交える。 ①では、充実したよりよい生き方とはどのようなものを指すのかを考えさせる。 ②では同年代の仲間の意識を知ることで、自分の考えを整理させる。
感想文を書く	資料プリントを読んで考えたことを感想文にまとめることで、「よりよく生きる」ということについての気持ちを整理する。（15分）	感想文用紙配布。 感想文記入。 生徒の様子を観察し、落ち着いた雰囲気の中で、感想文を書けるようにする。
まとめ	今回の取り組みで、周囲の同世代の仲間の意識を知ることがいかに自分の生きる支えとなったかを振り返る。（５分）	今後も機会あるごとに生きることの大切さを見つめる必要性があることを感じとらせる。

3）生と死をみつめる授業Ⅱ

――保護者からのメッセージの活用――



1）時　間　　1時間

2）場　所　　教　室

3）ねらい　　保護者からのメッセージを読むことで、「今まで」・「今」・「これから」のそれぞれの自分の生き方を振り返ったり、考えてみたりする機会をもち、よりよく生きる姿勢を見つめ直してみる。また、保護者は自分自身にとってかけがえのない存在であることも再認識し、「授かった命を大切に生きていく」姿勢をしっかりと思い起こさせる。

4）準備物　　保護者からのメッセージをまとめたプリント（保護者のメッセージに対して自分の感想を書く欄も含んだワークシート形式のもの）

5）配　慮　　保護者から「我が子に宛てたメッセージ」が本授業の中心になる。そのため、授業時点で保護者との関係がよくない状況にある生徒、あるいは保護者に対して心が乱れるような不安定で特別な感情を抱いている生徒には気を配る必要がある。

6）授業展開

場　面	活　動　内　容	留　意　点
ねらいの説明	今回の授業計画の全体の流れの説明と本時のねらいの説明を聞く。（5分）	全クラス共通の資料を使用するが、担任の裁量で資料の使い方の工夫も可能。
「保護者からのメッセージ」にふれる。感想をまとめる。	「保護者からのメッセージ」に触れることで、「今まで」どういう思いで自分を育ててきてくれたか、「今」どのような思いを抱いて自分と向き合ってくれているか、自分に対する「これから」の願いはどのようなものかということを感じ取り、いままでの自分の生き方を振り返ったり、よりよい生き方をじっくりと考える機会にする。 メッセージに対して自分の感じたことをまとめることにより、生きる姿勢を見つめなおす。 (35分)	保護者からのメッセージをプリントしたものを配布。 年齢的に保護者に対して複雑な思いを抱いている生徒もいると思われるので、生徒の様子を十分に見守り、落ち着いた雰囲気の中で感想文を書けるよう留意する。
ま　と　め	今までの一連の「生と死をみつめる授業」を振り返り、今後も「よりよく生きる」ことを深く、大切に考える。（10分）	国語の授業で扱った「命」に関わる教材や絵本を通して考えた「命」の大切さを振り返る。

5）生と死をみつめる授業Ⅰ　―絵本「葉っぱのフレディ」の活用―

①　生徒の様子

本授業を実践する際の一助になればと、筆者が担任していた第3学年のクラスでの実践記録を以下にまとめる。事前に「今度のロングホームルームは『生と死をみつめる授業』を実施する」という予告をしたときには、どうしてそのような授業をする必要があるのかという反応を示していた生徒が多くいた。しかし、いざ授業に入ると落ち着いた雰囲気の中で生と死をみつめることに集中していた。担当クラスには数年前に父親を亡くした生徒が2人いたために、筆者は特にその2人の生徒の様子に注意を払って見ていた。1人の生徒は授業に入る前からふさぎがちで、いつもの元気が感じられなかった。もう1人の生徒は朗読のCDが終わり、筆者が「木の葉が散った後には肥やしになり、他の植物を育てる上で役立つのと同じように、人も亡くなった後は、遺された人々の思い出となり生き続けていくのだ」という話をした時に、ハンカチで涙を拭うという仕種が見られた。全体的に普段の授業とは全く違い、しんみりとした中での授業展開であった。

いかに教師の側が、「生と死をみつめる授業」がよりよく生きることにつながるかを熱意をもって語るかによって、授業の雰囲気が決まってしまうと言っても過言ではないと感じた。教材の扱いについては、朗読CDを用いたことがよかったのか、生徒達はスピーカーから流れる声と音楽に聴き入っていた。

②　生徒の感想

（1年生女子）

フレディの命はとても短かったけど、でも、とても充実していたように思う。人を喜ばしたり、仲間と楽しく暮らしたり。ほんの少しだけど死ぬことがこわくなくなった気がする。嫌なことがあって自殺するという悪い意味での「死ぬ」っていうことじゃなくて、あと少ししか生きられなくなった時に感じる「死ぬ」っていうことに関してだけ。フレディは死んでしまったけど、土の中に入って、大きな木を育てることになる。人間は死んだらそういうことはないけど、家族や友人、恋人の心の中に生き続けていたら、その人は生きている感じがする。何となく生きているんじゃなくて、もっと生きていることを実感して生きていきたいと思う。

（2年生女子）

生まれてきて意味のない命は本当に一つもないのだと気づいた。大切なのはその命を受けたものがどのような生き方をしていくかということだと思う。そういうところで人間の価値みたいなのは違ってくるんだと思う。

（3年生男子）

昔は僕は「死」はあまり恐いものと思っていませんでした。たぶんそれはマンガやテレビゲームの影響だと思います。人は簡単に死ぬものだし、そのかわりに毎日多くの新しい命が生まれてくるので、自分もその中の一つに過ぎないと思うと、あまり恐怖は感じません。でも、友達や親類の死を体験すると、自分の身近な人の死がどれほどつらいものかを知り、恐ろしくなりました。そして、そういう身近な人たちのためにも一生懸命毎日を生きなければならないとホームルームを通して考えました。

③　授業実践について

生徒の感想文に目を通してみると、ほぼ全員の生徒が、「葉っぱのフレディ」をこの授業で扱ったことについては肯定的にとらえていた。ここに取り上げた3年生男子の感想文は、テレビゲームに熱中する世代の代表的な意見であるように思う。さらに、最近日本でも残虐な殺人事件が頻繁にテレビ等のメディアを通じて報道される場面が目に付くようになった。そのような日常生活を過ごしていると、当然のことながら死生観が変わってしまうのではないか。特に、思春期ぐらいまでの子ども達に与える影響は大きいのではないだろうか。そのような意味でも、「生と死をみつめる授業」は必要であると考えるのである。

④　生徒の手紙文の一例

「今後自分が生きていく上での決意」を手紙文の形式でまとめるワーク

《　みんな　へ　》　　（2年生女子）

好きなコトばっかりやってる人生って本当に幸せなのカナ？って思った。ルーズはいて、スカート短くして、どこにでもいる女子高生やって、勉強はそっちのけ。今は楽しい毎日かも知れないケド、これって、本当に時間のムダなのカモ。今、「あと一ヶ月で死ぬんだ」って言われたら、きっと、今の生活後悔するんだろうナ、って思う。ルーズとかっていう今どきの女子高生をやめなかったとしても、きっと今とは違う毎日を始めると思う。死ぬって分かったとき、私が一番欲しい物は、お金でも、カレシでも、友達でもなくて、自分らしくでいいから、力を出し切ったぞ！って思えるような私が生きてきた人生だと思います。もちろん、友達とかは、スゴク大切だけども……。きっと、精一杯やった人生なら、本当にいい友達もできると思うし、今みたいに、何となく……っていう毎日を、大きく変えていきたいと思います。

《　自分　へ　》　　（3年生女子）

15歳でお父さんを亡くし、お母さんと2人だけの生活も、はや2年半。時々あのときのことを思い出し、2人で泣いたこともあったけど、2人で強く生きてこれたのは、きっと、お父さんが心の中でずっと生き続けているからだよね。お父さんを失うまでは、父親の有り難みなんてあまりわからなかった。英語を教えてもらったり、旅行につれていってもらったりしたけど、私にとったら、お母さんよりも遠い存在だった。お父さんを失ってみて、父親の偉大さ、また、尊さを感じることができたね。あれから2年半たった今まで、一日たりともお父さんのこと、忘れる日はなかったね。やっぱり「命」は永遠なんだと思う。これから、大学に進学し、社会人になるに当たって不安とかあると思うけど、お母さん、友だち、それにお父さんがいるから必ず、道は開けていくよね。

お父さんがいつも言ってたように、努力すればいつか必ず実ると思う。今は、大学受験を控えてて苦しい時期だけど、勉強したらした分だけどこかで役に立つと思う。だから、手を抜かずにがんばろうね。親の死を通して、人の痛みがずいぶん分かるようになったし、人間としても一回り成長できたよね。これから、いろんな経験を積んで、”大きい”人間になろうね。

⑤　手紙文について

手紙の宛名としては「自分」を対象にした生徒が最も多く、そのほとんどが自分の今の生き方を反省し、今後よりよく生きていくための決意が述べられたものであった。この度の一連の授業を通して、自分の今の生き方を改善し、自分を励まして「命を大切にしてよりよく生きていこう」という意識の高まりがみられた。その他、両親をはじめとして家族に宛てた手紙も各クラス平均5枚程度あり、家族への感謝が述べられ、今後の自分の生き方を改善していこうという意識が見受けられた。肉親を亡くした生徒の場合、その亡くなった肉親に宛てた手紙を書いている者がほとんどで、上記の3年生女子のように、亡くなった人の思い出が語られ、その思い出が今の自分の生を支えてくれているといった気づきが語られていた。今回の授業が、亡くなった人を自分の中に受容することに役だったのではないかと感じた。

⑥　今後の課題

「生と死をみつめる授業」で扱う教材を精選する際、「葉っぱのフレディ」という一冊の絵本に目が止まった。肉親を亡くして間もない生徒もいるクラスの実態を考えると、木の葉の一生を通して人の一生を考えていく方が抵抗が少ないのではないかと考えこの教材を選んだ。柳田(1998)は、「少年少女向けの物語や童話や絵本には、『生と死』や別れや喪失体験をテーマにした作品が少なくない。それらは人間が生きていくうえで避けられない悲運とその受容についての、いわばメタファーとしての物語として表現された作品であるということもできる」と述べている。高校生に絵本や童話と親しむ機会を与えるということは、かえって素直な気持ちで「生と死をみつめる」ことにつながるのではないだろうか。教材選びも「生と死をみつめる教育」を展開していく上で重要なポイントである。

6）生と死をみつめる授業Ⅰ　―絵本「100万回生きたねこ」の活用―

①　生徒の様子

第１時では、生徒達は教室のスピーカーから流れてくる朗読を聞きながら、机の上に広げられたプリントを一心に目で追っていた。絵本など目にする機会もめっきり少なくなった高校生たちにとって、とても新鮮な授業であったように思う。絵本を前にしたときの生徒達の様子は、普段の授業で見せる姿とは異なり、まるで子どもの頃に戻ったかのような素直な顔つきになり、目を輝かせていた。絵本は、生徒達の心を落ち着かせるという意味において「心の教育」に適しているのではないかと、今回生徒達の表情を見て改めて感じた。

第２時では、教師の方から前回のホームルームを振り返りながら、資料にまとめた生徒の感想をいくつか取り上げながら授業を進めていったが、あまりにも熱心に資料に目を通している生徒達の様子を見ていると、教師サイドからの展開は必要ないのではないかと思えるほどであった。普段仲間同士でいろいろな会話をしている生徒達ではあるかと思うが、「かけがえのないもの」や「命」、「人生」など生きていく上での大きなテーマについては、語り合う機会がないのであろうと思う。そのために、今回の「生と死をみつめるホームルーム」を通して、普段見ることのできない仲間の姿を必死になって求めるムードにつながったのではないかと思われた。

②　生徒の感想

枠内の質問は、生徒達に配布したワークシート形式のプリントの形態をそのまま使用している。その質問に対する生徒達の感想文を紹介する。

いろいろな飼い主にめぐり会い、その都度かわいがられたねこでしたが、どうして「しぬのなんかへいき」だったのでしょうか？

・ねこはそれぞれの飼い主にかわいがられていたから、不快でもなかったし不自由でもなかった。けれど、それは自分が飼い主を決めたわけではなくて、飼い主の希望で飼われていた。その時の飼い主によって決められる自分の人生が、ねこにとって価値があるとは思わなかったから、いつ死んでもよかった。

「だれのねこでもなくなった」時のねこの気持ちはどのようなものだったでしょう？

・俺の、俺だけの人生が歩める。やりたい事もやりたくない事も自分で選び、自分で決められるんだ。誰かに大切にされるために自分を隠す必要もないし、俺自身を自分で大切に思えるんだ。俺にふさわしい人生を俺の力で作り上げてやる。

「白いねことの出会い」で、ねこは何を得ることができたのでしょうか？

・人を「満足」させて、自分を「満足」させる。それが「幸せ」ってことで、それが「喜び」であることを感じることができたと思う。きっと白いねこに出会えたことで、人を「愛する」ってこと、他人を「幸せにする」ってこと、それが自分の中ですごーく満足できることだったんだろうな。

それまで「100万回生きたねこ」は、なぜ最後の死を終えた後でいきかえらなくなったのでしょう？

- 「本当の自分」にめぐり会えることができたので、生き返ることをねこは望まなかったのだろう。今までの生き方は自分ではないと言うことに気がつかないで生きていたので、やり直したい気持ちで何回も繰り返したのだろう。
- 自分で満足のいく命を送ることができたからだと思います。そして、生きている間に失いたくないものがあり、それを失ったときの悲しみを感じることができたからだと思います。そのかけがえのないすべての記憶を永遠に保持し続けていくために、ねこは生き返らなかったのだと思います。

あなたが最も「かけがえのないもの」と考えている、そのものに対するあなたの思いを書いて下さい。

- 家族は私にとってなくてはならないものです。私には帰る家があって、「おかえり」と言ってくれる人たちがいるからこそ、今の私があるのだと思います。もし、家族がいなかったら、私は友達も自分も心からは愛せないだろうと思います。いつも寂しくって心の余裕のない人に人は愛せません。私を待っている人たちがいるからこそ、人を愛せるし生きていけるのです。私も同じように家族の帰りをいつも待っています。帰りが遅くて連絡もなければ心配もするし、不安でいっぱいになります。今日も帰ったら「おかえり」と言ってもらいたいし、逆に大きな声で言ってあげたいです。
- いっぱい笑って、いっぱいしゃべって、学校生活を楽しくしてくれるのは友達だと思う。友達がいたから乗り越えられたつらいことや親にも話せない悩みごとなどを話せる。一人では何もできなかったと思う。友達がいてよかった。私にとって、すごく大切な存在です。
- 生きることはこんなに大切なこと、と知ったのはやはり震災を経験したことが大きいと思います。でも、今日、明日何が起きるかなんて誰にもわからないのと同じで、死も突然くるかもしれない。私が悩んだり、うれしかったり、泣いたりする時に友達や家族が支えてくれて声をかけてくれたりするから毎日が楽しいし、またがんばろうと思えるからです。

周囲の仲間の感想・意見にふれて、どう感じたか自由に書いてください。

- 2回目の授業では、みんなの感想をもとにして授業をやった。みんなの感想にはいろいろ考えさせられ、真剣さを肌で感じ取ることができた。このようにみんなが真剣に「生きる」ということを考えていたら、社会で起こっている事件などは起こらないと思う。このようなホームルームは自分の気持ちとかを素直に考える機会として良いことだと思う。
- みんなの考えを読んで、”あー、納得……”って思った。それぞれの人にそれぞれあって、その気持ちは強かった。それは、その人が生きてきた中で感じて、経験したことだから、きっと奥深いものなんだなあ。「どこかでみんなつながっている」私もそう思う。私の周りのみなさん、いろいろ考えさせてくれてありがとう。私はあなた達に支えられて生きてます。これからもよろしく。
- 友達と帰り道とかで、この授業について話したりしました。いろんな人の意見が聞けてよかったと思いました。